

豊海橋

とよみばし

豊海橋は、日本橋川が隅田川に合流する位置に架かり、中央区新川と箱崎を結ぶ。永代橋から、梯子を横にしたようなこの橋を眺めると、日本橋川の存在をアピールしているように見える。

神田川とJR水道橋駅付近で分かれた日本橋川は、皇居の北側を流れ日本橋を経て、隅田川に流れ込む。その昔、平川とよばれたが、日本橋が架かっていたので、下流部分を日本橋川と名づけたとの説がある。

江戸時代、日本橋川は江戸城の外濠として重要な役目を担い、またその下流部を中心に江戸湊が形成された。隅田川をのぼってきた物資はこの川を經由して、江戸市中へ運搬された。大消費都市江戸は川によって支えられていた。

橋が初めて架かったのは、元禄11年(1698)である。『新撰東京名所図会』に、「豊海橋は、北新堀町旧永代橋広小路より京橋区南新堀町に架する橋梁なり、木造にして長二十二間、幅三間あり。一名乙女橋いうよし、武江図説に見ゆ」と書かれている。『府内備考』には「新堀の東端にありて女橋ともいう」とある。

昭和3年(1928)、北原白秋は『大川風景』で、「ほう、ひどくなったな。芥埃船である。今はおおかた酒倉は新川へ移ってしまったが、それにしても乾き果てた低いバラック、灰色と濁った黄と黒との混雑、芥埃船、芥埃船、芥埃船である。南新堀、北新堀、その間の小運河の、上手は鎧橋から江戸橋となる。おや、あれは三越のフラウだな。と、こちらは青い豊海橋、といってもわかるまい。その乙女橋、完成したばかりの新式鉄橋、その左、大川に臨んで、埋立は三菱倉庫の地形中だ」と描写した。豊海橋より乙女橋という名のほうが、当時の人びとには馴染みが深かった。

現在の橋は関東大震災の復興事業によって架け替えられた。わが国、最初のフィーレンデル橋で、当時復興局勤務で後の東大教授・福田武雄の、大学卒業後間もない頃の処女設計である。大正15年(1926)5月15日工事に着手し、2年2月27日に完成している。289日の期間で完成したことになる。この工事に携わった土工・鳶職人・石工など、延べ人員は8,017人であった。平均すると1日に28人の職人が働いていたことになる。

復興局が施工した東京市内の橋梁数は115橋であった。その外に東京府、東京市が施工した橋や街路整備、建築工事が同時に行なわれていたことを考えると、復興事業のために全国から驚くほど多くの人が集まり、東京で働いていた。

豊海橋は永代橋の雄姿と並び賞されて、橋梁工学の教科書に掲載されることが多く、この形式の手本になっている。骨太な部材はビル群の間にあっても、その力強さを主張し、ライトアップは夜景を演出しているのである。 [HI]

竣工年月：昭和2年(1927)2月27日

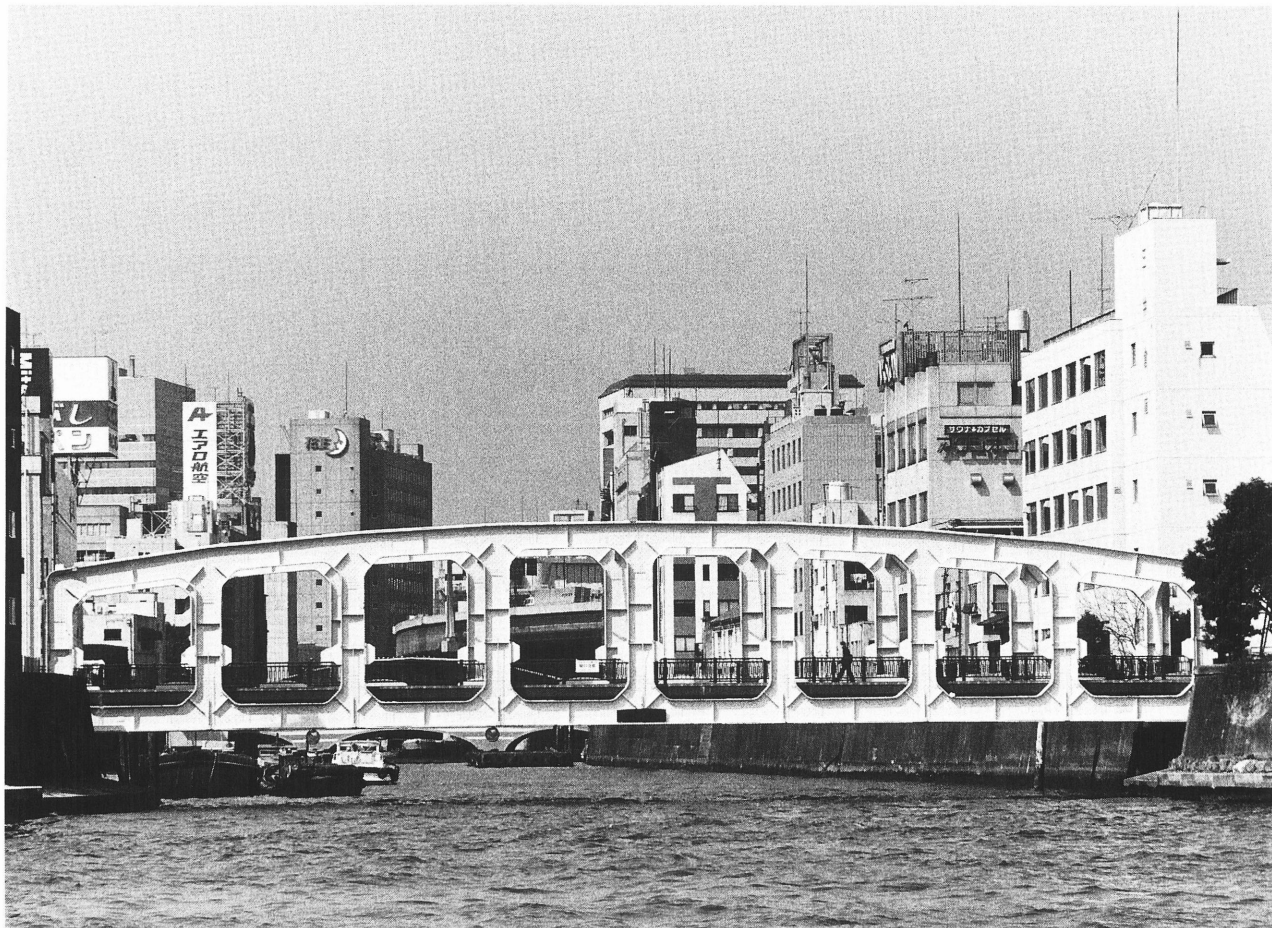
所在地：東京都中央区箱崎-同区新川

河川名：日本橋川

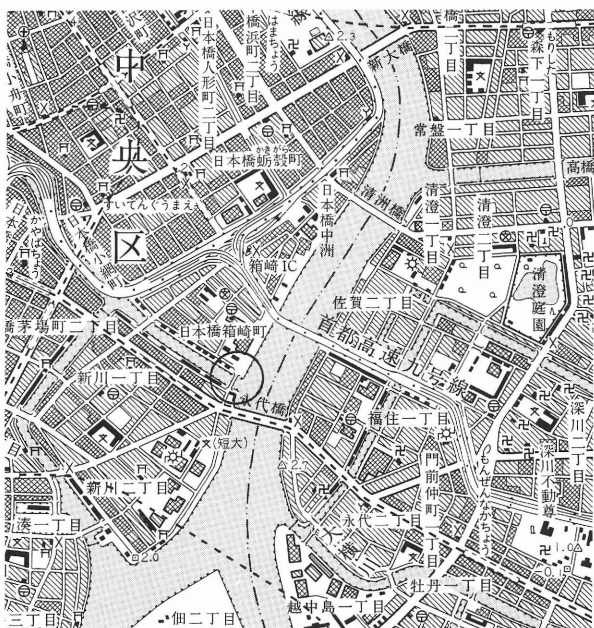
橋長・幅員：46.279m×8.0m(車道6.0m+歩道1×2.0m)

径間数・支間長：1×45.110m

形式：下路フィーレンデル



〈1994年3月5日，写真提供・共に平原 勲〉



(1:25,000 東京首都)

